

11 ひょうか 評価について

検定では、種目ごとの検定表に書かれた「検定の観点」に沿って審査を行い、参加賞又は10級から1級までの級によって、受検者の清掃技能を評価します。

以下に、評価の仕方について説明します。

☆検定表の記載例☆

テーブル拭き

検定日：平成〇〇年〇月〇〇日 (〇) 都立〇〇〇〇特別支援学校 高等部 〇年 氏名 〇〇 〇〇

No	☆	検定の観点	評価
①		資機材準備<白タオル1枚、バケツ1個、黄タオル1枚>	◎
②	☆	水を入れる前にタオルを畳む<横長に構える、正しい畳み方、八つ折にする、空中で畳む、端がそろっている、黄タオルは床に着けない>	◎
③		バケツに水を入れる<水を入れる前に、テーブルの左側へ、養生の白タオルを敷く、水の量は3分の1程度>	◎
④	☆	しぼる<四つ折~八つ折~16折にして、バットと同じ握り方、先端を下に向ける、腕を伸ばしながら内側に絞る、しっかりと絞れている、立つ前に手を拭く>	◎
⑤		タオル絞りの姿勢<片膝を着く、膝を着けた脚はつま先を立て、床にべたらずねを着けない>	◎
⑥		持つ<バラの方を親指で挟む、指を伸ばす、手をタオルの中心に置く、タオルが真つすく向いている、手のひらを浮かさない>	◎
⑦		縁を拭く<自分から遠いところから、一周する、隅を拭き残さない、辺を拭き残さない、力を入れて拭く>	○
⑧		中央を拭く<自分から遠いところから、横・縦・横・縦の順で、真つすく拭く、拭き跡が重なるように、力を入れて拭く>	◎
⑨		ひっくり返す<タオルの手前又は奥側を持って、縦にひっくり返す、バラバラの方が親指側にくる>	◎
⑩		効率の良い拭き方<正しい作業動線で行う、同じ所を何度も拭かない、手をついた所は拭き取る(テーブル上面に手を付かない)>	△

できていた	できていなかった	タイム	3' 4 8"	級	3級
-------	----------	-----	---------	---	----

全ての種目において、①から⑩までの、10の項目ごとに評価を行います。

各項目とも、それぞれ「検定の観点」が設定されており、審査員は、受検者が作業する様子を見て、できていた箇所には○を、できていなかった箇所には△を記入します。

⑥	持つ<バラの方を親指で挟む、指を伸ばす、手をタオルの中心に置く、タオルが真つすく向いている、手のひらを浮かさない>	◎	検定の観点が全て○→評価欄は◎になる。
⑦	縁を拭く<自分から遠いところから、一周する、隅を拭き残さない、辺を拭き残さない、力を入れて拭く>	○	検定の観点到△が1個→評価欄は○になる。
⑧	中央を拭く<自分から遠いところから、横・縦・横の順で、真つすく拭く、拭き跡が重なるように、力を入れて拭く>	◎	
⑨	ひっくり返す<タオルの手前又は奥側を持って、縦にひっくり返す、バラバラの方が親指側にくる>	◎	検定の観点が全て○→評価欄は◎になる。
⑩	効率の良い拭き方<正しい作業動線で行う、同じ所を何度も拭かない、手をついた所は拭き取る(テーブル上面に手を付かない)>	△	検定の観点到△が2個→評価欄は△になる。

検定の観点の右側には、「評価」を記入する欄があります。項目ごとに見て、検定の観点が全て○の場合は、評価の欄に◎を記入します。同様に、△が1個ある場合は○、△が2個以上ある場合は△を記入します。

No	☆
①	
②	☆
③	
④	☆

また、いずれの種目にも、基本中の基本として、必ず身に付けてほしい項目を二つ設定しており、検定表の項目番号の隣に☆を付けて表しています。

☆の付いた二つの項目の評価欄を最初に確認します。

- ☆の付いた項目の◎が0個の場合は、参加賞となります。
- ☆の付いた項目の◎が1個の場合は、10級になります。
- ☆の付いた項目が2個とも◎の場合は、9級又はそれ以上の級になります。

No	☆	評価
①		◎
②	☆	◎
③		◎
④	☆	◎
⑤		◎
⑥		◎
⑦		◎
⑧		◎
⑨		◎
⑩		△

9級以上の級は、☆の付いた二つの項目以外の◎の評価の数によって決めます。

◎が8個あれば1級、◎が7個あれば2級になります。

この場合は◎が6個あるので、3級になります。

級の決め方を整理したのが下の図です。

